



ロイヤルカナンのプロフェッショナルと獣医師が語る 愛犬の“真の健康”のためのフード選び



日本動物医療センター
院長 上野 弘道 先生

ロイヤルカナン ジャパン
プロフェッショナル事業部
部長 橋本 将司 氏

家族の一員として長い時間をともに過ごす愛犬の健康を守るために大切なこと、取り組むべきこととは何でしょうか。今回は、獣医師によってフランスで生まれたペットフードメーカー「ロイヤルカナン」の日本法人、ロイヤルカナン ジャパンの橋本将司氏と、東京・渋谷で50年以上にわたり、ペット専門の24時間救急を行う日本動物医療センター院長、上野弘道先生に、愛犬を“真の健康”に導くためのフード選びを始め、ペットケアのさまざまなポイントについて語っていただきました。

ペットの病気予防という観点と正しい知識による啓発が大切

ロイヤルカナン 橋本部長（以下、橋本部長） 上野先生は、東京・渋谷で24時間診療を行う日本動物医療センターの院長として活躍されていますが、東京でも数少ないペットの救急診療を行っているという点も、私には驚きです。

日本動物医療センター 上野先生（以下、上野先生） はい、私たちの動物病院は、1969年の設立当初から24時間の救急病院として運営しています。日々獣医師や看護師が24時間体制でペットのケアに対応しているのが当院の特徴です。

橋本部長 24時間の救急対応は本当に大変だと思います。私たちロイヤルカナンは、ペットの“真の健康”の実現を目指すフードメーカーとして、犬や猫のフードを提供する一方、「ペットの健康とウェルビーイングの促進」のため、獣医師の先生や、

ブリーダーやシェルターといった専門家の皆様との協働や、犬と猫をとりまくすべてのステークホルダーに対する支援や知識の共有なども大変重要だと考え、取り組みを行っています。

その一環として、私の所属するプロフェッショナル事業部では、顧客であるブリーダーやシェルターの方々に支援する様々な活動を行っており、一例として、昨年「ロイヤルカナン PRO CLUB（プロクラブ）」というブリーダーやシェルターの方々のためのポータルコミュニティサイトを立ち上げました。「ロイヤルカナン PRO CLUB」では、栄養学、衛生学などの様々な専門知識をEラーニングによって提供し、また、皆様のネットワークづくりのサポートなどを行っています。ペットのスタート地点と言えるブリーダーや



ロイヤルカナン ジャパン
プロフェッショナル事業部部長
橋本 将司（はしもとまさじ）

大学卒業後、ジョンソン・エンド・ジョンソンに入社。チェーンドラッグストア、SM、GMSなどを担当。その後、スウェーデン企業のEFインターナショナルを経て、2007年にロイヤルカナン ジャパンへ入社。入社後は、北海道のペット専門店担当セールスとして配属され、2008年に東京本社へ異動。以降、キアカントリーリーダー、キアアカウントマネジャーを経て、2017年から2021年1月までペットショップ事業部長を担当。プロフェッショナル事業部長へは、2021年2月に着任。

愛犬の真の健康とは「病気でない＝健康」ではない

シェルターの皆様への支援を通して、業界の発展とペットをとりまく環境向上に寄与しようという日々取り組んでいます。上野先生は、獣医師のお立場として、ペットの健康については普段どのようなお考えをお持ちでしょうか。

上野先生 ペットの健康に関する正しい知識を提供することは大切です。ペットの健康を考える上で栄養学はもちろん、その他にもスキンケア、腸内環境のケアといったこと、特に肥満や歯周病ケアは愛犬の寿命と関係がありますので、これも非常に重要です。私たちは実は救急診療だけでなく、かかりつけ医的な立場でペットの健康についての啓発を積極的に行いたいという思いから、通常診療も行っていきます。また、トリミングなどの普段のケアを通じてさまざまな情報提供を行うウェルネスサロンという部署も設けており、愛犬の健康維持や予防診療にも取り組んでいます。現場のトリマー

は、それぞれのワンちゃんを直接触って、皮膚や毛の状態を確認するので、ちょっとした異変に気づいて獣医療スタッフに伝えてくれます。大事なのは、爪切りやトリミングといったちょっとしたケアでもクリニックに気軽に来てもらうことで、ペットオーナーの皆様との関係を築きながら病気を予防することです。今、橋本さんからペットのウェルビーイングというお話がありましたが、こうした日々のチェックの中で正しい情報をお伝えしながら、健康であり続けるために何をすべきかを、ペットオーナーの皆さまと私たち獣医師者が共に考えていくというのが当院の方針です。

橋本部長 ペットの急な病気がケガだけでなく、普段の健康についてもさまざまな領域をケアされていることで、ペットオーナー様との接点は広がりますし、ケアの機会を持つことで、多くのヒントが生まれますね。

日本動物医療センター院長
上野 弘道（うえのひろみち）



1998年、日本大学獣医学科卒業。日本動物医療センターは1969年に開業以来、24時間救急対応しており、「入院している動物を決して一人ぼっちにせず、きちんと見守る体制でなければいけない」という想いのもと、2004年からは、動物医療ではいまだに珍しい24時間治療・看護を開始。深夜の緊急手術にも対応している。愛犬は保護したパピヨン2頭。（公社）日本獣医師会理事（公社）東京都獣医師会 業務執行理事、（公社）日本動物病院協会 専務理事、（一社）VOA Japan 副代表。

上野先生 普段の診療でのフードという意味では、特定の病気に対応するための療法食の提供を行っています。例えば、膀胱内に結石が出来やすい子があるフードを食べるとできにくくなったり、もしくは場合によっては石をフードで溶かすことができる。手術をしなくても治療ができるという療法食としての有名な例ですね。人と同じよう

に動物の身体も食べたもので常にならされていますから、素材の良いものを使ったバランスの取れた食事をとることが大切で、なぜそれが必要なのかを伝えられる場があることが、やはり重要な点です。私たちが病気を診断する手前のところで、それ以上健康状態を悪化させないようするか、あるいは悪いのであれば、いかに早いタイミングで生活指導や食事指導で改善できるかがこれから特に求められてくるのではないかと私は考えています。

橋本部長 最適な栄養バランスを実現していても、犬が食べてくれない場合は、また食べても適切に消化されなければ意味がありませんので、私たちは「嗜好性と消化性」も重視しています。犬種によって頭の形が違ったりするので、適正なキブル（粒）の形状も異なります。そのため、匂いや味、口当たり、咀嚼のしやすさ、消化しやすい粒度、満腹感を与えるための密度、犬の顎のカタチまで考慮して、こだわりの一粒をつくりあげています。このように、最適な「栄養バランス」と優れた「消化性・嗜好性」を備えたフードづくりを行うことで、愛犬の“真の健康”を実現しようとしています。

実は若い頃、漢方の勉強をしていたことがあり、ペットの健康についても「医食同源」という考え方が根底にあります。健康と病気の境目は本来きちんと分かれているものではなく、「未病」という状態の中で、いかにその健康状態に近づけられるか。薬を使わずに、食事やペットオーナーの方への健康指導で良くなるのなら、その方が動物にとってより良いわけです。やはり質が高く、かつ科学的な根拠がきちんとあるフードを提供することが大切で、そうした意味で、ロイヤルカナンの療法食を、様々な病気に必要なタイミングで私たちは選択しています。また、私自身が飼っている13歳のパピヨンのフードをロイヤルカナンに変えたところ、うちの状態も良くなり、昔のように元気にジャンプするようになったという経験をしました。私たちは、普段



最高のフードは高水準の品質管理から生まれる

上野先生 今、犬種ごとにキブルの形状が違うというお話がありますが、まずたけれど、ロイヤルカナンのフランス工場を見学したとき、その説明を受けて「すごい!」と思いました。例えば「マズル(鼻面)が短い子は、この辺で食べて力がこわ加わるからこういったキブルにします」とか、すごく細かいところまで配慮されてフードを作られているのを見て、すごく感銘を受けたんです。

橋本部長 まさに先生がおっしゃった通り、犬種ごとのマズルの長さの違いや、食べ方の特徴、体質の違いなども考慮して、キブルの形状を考えています。例えば、ラブラドルレトリバー用にドーナツ型のキブルというものを用意しています。なぜドーナツ型かというとラブラドルがよく噛む形状になっているからです。大型犬のラブラドルは食欲が旺盛で、大きなお皿のフードを、バットと十秒くらいで食べ終えてしまう(笑)。ですが、ドーナツ型の粒をあげると、しっかり噛んで1回顔を上げてから咀嚼する。丸のみせず噛むことで消化を促すことができます。

上野先生 すごくいですね!そこまで考えて作られているというのは、ロイヤルカナンのフードづくりへのこだわりや企業としての底力を感じます。

そこで逆にお訊ねしたいのですが、ロイヤルカナンは、フランス本国でフードの研究開発を行い、現在世界

16カ所にある工場で製造されているということですが、高品質なフードづくりのための生産体制や品質管理はどのように行っているのですか?

橋本部長 ロイヤルカナンの製品を開発しているのはフランス本社の栄養学の専門家チームです。開発された製品は各国の工場と同じ規格で製造されているので世界共通です。安全で質の高い原材料を安定して確保するため、環境や倫理面も重視してサプライヤーも厳選しています。数えきれないほどのサンプルに対して何百もの項目にわたる分析・検証を行い、原材料リスク評価もチェックしています。採用されたサプライヤーは、厳選した最適な原材料を世界各国から調達し、世界の各工場に供給しています。

上野先生 そういえば、フランス工場を見学した際、工場入り口に原材料を納品するトラックを付けて、検査室でさまざまな検査がされている場面を見て、本当にびっくりされているのだなあと感銘を受けました。例えば物流の過程で異物が混入する可能性があるわけですが、工場に入る前にシャットアウトできる仕組みがあるというのがすごいと思います。

橋本部長 はい、ロイヤルカナンでは、世界各地のどの工場でも、原材料を納入するトラックが到着すると、原材料を目視で確認して、おおいの検査を行った上で精査します。原材

料のサンプルを異なる箇所から採集して分析テストを行い、基準を満たさない場合、納入は受け付けません。こうした検査工程を通して各原材料は初めて工場内に搬入されます。製造工程では、「正確な栄養バランス」を提供するため、各原材料を正確に計量し、「嗜好性」と「消化性」を高めるため、微細な粒子サイズに粉砕します。食品の安全・品質の条件を満たすよう、キブルのサイズだけでなく、フレーバーコーティング、そして正しい温度管理までしっかりと行います。愛犬にとって最高の風味を保つためです。このような様々な工程を経て生産されたフードを最高の品質のままパッケージングするため、空気制御システムを採用し、賞味期限までの間、酸化しないように製品の鮮度を保ちます。



橋本部長 そうしたフードづくりの厳格な管理を行う上で、ロイヤルカナンの知見や経験に基づいて、最新鋭の設備を備えたのがロイヤルカナンの韓国工場です。フランス本場で経験を積んだ社員たちが指揮をとり、原材料の選定から生産工程、パッケージング、出荷まで世界共通の基準で行っています。上野先生は韓国工場も見学されたそうですね。

上野先生 そうなんです。貴重な機会をいただいて、韓国の仁川を経由して向かったのですが、郊外の非常に空気がきれいな場所であり、その時は綺麗な青空が広がっていたのを記憶しています。とにかくすごいなと思ったのが、工場の清潔さです。工場内には、内部を見学できる回廊があるのですが、生産現場は、おそらくスーツで寝転んで大丈夫なほどきれいでした(笑)。

また、内部は高度にオートメーション化されていたという印象でした。作業する人が少ないために、その空間内に余計なものが入る隙がないという感じで、すごく先進的でした。

橋本部長 私も現地に行ってクリーンさにあらためて驚かされました。ここには業界でも最先端の技術と設備を導入しています。最新の原材料クリーニング設備(クリーニングタワー)を備え、すべての原材料から確実に異物を除去し、異なる製品の混入を防ぐために、ベルトやチーンコンベアを用いない新しいパッケージングシステムなどを採用して

ロイヤルカナンの知見を集め 最新鋭の設備を備えた韓国工場

います。ここで製造される製品は、フランス工場を含む他のロイヤルカナンの工場で製造される製品と同じく、フランス本社で厳しい品質検査を行って出荷されます。

また、韓国工場は多国籍な環境で、世界各地のロイヤルカナン工場が製造・品質管理の経験を積んだ社員が、運営管理を行っており、品質への妥協を許しません。彼らは国は違っても「Dog & Cat First(すべては犬と猫のために)」という共通の理念のもと、愛犬にとって最高水準のフードをつくることを目指しています。

上野先生 そうした最新鋭の製造工場や技術によって、ロイヤルカナンのフードの品質の高さが裏付けられているわけですね。



愛犬の健康に一番必要なものを考えた選択を

最後に愛犬家の皆様にもメッセージをお願いします。

上野先生 愛犬のためのフード選びや健康管理についていろいろとお話しさせていただきましたが、「医食同源」はペットにとってもすごく重要だと思えます。今から10年以上前の話ですが、手作りフードをやりたいという方をサポートしたことがあったのですが、愛犬に適切な栄養バランスのフードを手作りするのは、とても難しいものです。手作りに愛情を込めた感がありますが、日々の身体をつくる栄養素を効率よく摂ってもらうには、ロイヤルカナンのような信頼できるメーカーのフードを

かかりつけの獣医師やペットの専門家と相談しながら選んでいただくことが大切です。犬にとって何が一番必要か?という本質をしっかり見極めることで、より幸福なペットとの暮らしということができるのではないかと思います。

橋本部長 私も同感です。本当に必要な栄養を追求しつつ、きめ細かく考えた栄養バランスを、個々の犬たちがいかに届けられるかということが一番大事なことだと思います。これからの高品質なフードづくり、選ばれるフードづくりというものを目指していきたいと思えます。



ROYAL CANIN

a division of Mars Petcare

Eukanuba ROYAL CANIN

フランスに本社を置き、世界100カ国以上で、品種・年齢・身体のサイズ・ライフスタイル・健康状態によって異なる犬と猫の栄養ニーズにきめ細やかに応えるフードを展開するロイヤルカナンの日本法人、ロイヤルカナンジャパンは1991年設立。栄養学に基づいた犬と猫のプレミアムペットフードおよび食事療法食の「ロイヤルカナン」と愛犬の健康とアクティブな毎日をサポートするプレミアムペットフード「ユーカヌバ」を展開している。



● **本社所在地** 〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70 品川シーズンテラス 7階



ロイヤルカナン公式ホームページ
<https://www.royalcanin.com/jp>



Facebook 公式アカウント
<https://www.facebook.com/DogAndCatFirst>



「品質とフードの安全・安心への取り組み」
<https://royalcanin.jp/safety>